



時代が変わっても 変わらずに大切にしていきたいもの

心温まる少年の主張大会

町では、毎年小中学生の意見発表の場として、六月に「少年の主張大会」を開催しています。今年の主張大会は、平成から令和に改元されたこともあり、新しい時代への希望に満ちた主張が多くありました。

今年度の出場者は小学生八名、中学生四名で、テーマや取り上げた題材は異なりますが、「誰もが安心して暮らす」ことや、「人と人とのつながりを大切にしたい」という人権につながる内容が多く、心が温まりました。人権の視点を交えて、いくつか紹介します。

先がけあいさつ

元気に「おはよう」、静かに会釈。あいさつにもいろいろありますが、自分からするところ、あいつがポイントです。あいつがされたから返すよりも自分からした方が、なぜか気持ちの良さが違います。互いに先がけあいさつを意識することで、コミュニケーションが生まれ、よりよい関係に発展すると考えられます。

地域活動への参加

家族や友達以外の人との触れ合いは、自分自身の成長にとっても大きな影響を与えてくれます。しかし、どこの地区でも参加者減少は悩みの種ではないでしょうか。

地域活動の参加者数を増やすために、小学生の自分のできることを考え、友達を誘ってみたり、目標を決めて活動してみたりと工夫を凝らし、参加者を増やすことができました。大切にされてきている、「地域が主体となって、地域で子どもを育てていく」といった考えを、主体的に実践している姿と言えます。

地域活動への参加は、災害が起きたときなど、いざというときの『助け合いのネットワーク』、絆の強さに関係してきます。「仕事や育児・家事で忙しく、そんな時間がない」という人も増えてきています。しかし、子どものため家族のために、地域や人との関わりを大切にしていただければと思います。

仲間こそ宝物

中学生の主張の中には、部活動で結果が残せなかったとき、自分の心を軽くした言葉、立ち直らせてくれた仲間こそ宝物だ、という言葉がありました。それは、何事もなく当たり障りのない関わりではなく、時にぶつかり合い、時に励まし合って感情を合わせ合ったからこそ得られたのです。

友達の一言、家族の一言、地域の人の一言、職場の人の一言、名前も知らない人と毎日あいさつを交わすだけの関係でも、人と人が接してはじめて、心は動き出します。その一言が、よりよい人間関係を築く第一歩となります。

あいさつ・地域活動・友情…。皆様にとって、変わらず大切にしていきたいものは何でしょうか。



令和元年度の主張大会出場者

(五十音順)

- 池辺小学校 伊藤 駿
- 「姿で示す 先がけあいさつ」
- 笠郷小学校 小木曾 すず音
- 「大切な家族」
- 上多度小学校 梶間 春花
- 「地球環境を考える」
- 日吉小学校 谷 咲央理
- 「明るい社会 人とのつながり」
- 広幡小学校 寺倉 あかり
- 「私の願い、みんなが笑顔で暮らせる社会に」
- 養北小学校 遠山 ななみ
- 「だれもが笑顔でいられる養北小」
- 養老小学校 野村 琥徹
- 「経験から学ぶ」
- 養老小学校 吉田 有希
- 「地域活動を続けていく」
- 高田中学校 小野 なずな
- 「変わりゆく時代の中で」
- 高田中学校 清水 涼花
- 「私たちにできること」
- 東部中学校 千賀 彩永
- 「SNSを便利に楽しく活用するための私の実践」
- 東部中学校 柳沢 祥太
- 「人々が安心して暮らす社会の実現のために」